

2015年1月26日

## 2015年1月12日～13日の阿蘇火山噴出物構成粒子の特徴

阿蘇中岳から1月12日～13日にかけて噴出した火山灰試料は、よく発泡したガラス質粒子に加え、火道壁からもたらされたと考えられる岩片が多く含まれている。

2015年1月12～13日の阿蘇中岳の噴出物を、中岳火口縁にて採取した。12日は比較的低い灰白色の噴煙を噴出つつ（写真1）、間欠的に火口縁上100m以上まで赤熱火山弾を噴き上げていた。13日は、噴煙高度が1300mに達する多量の灰色噴煙を噴出していた。両日とも火口内では活発な赤熱火山弾の投出が継続し、また多量の灰白色の噴煙が連続噴出していた（写真2）。

本期間に噴出した火山灰粒子はいずれも、スポンジ状に発泡した淡褐色火山ガラス質粒子（約半数）に加え、不透明黒色の火山ガラス粒子や結晶質岩片粒子（20-30%）、さらには熱水変質した白色岩片粒子（～10%）が含まれている。淡褐色～黒色ガラス質粒子の形状はやや円磨したものも見られる。12月26日噴出物などに特徴的に含まれていた、針状～毛髪状に伸長したガラス質粒子はほとんど確認できなかった。

これらの粒子の特徴から、火口内では活発なストロンボリ式噴火が継続していたものの、本期間には火道壁の侵食が進行し、火道～火口の拡大が起っていたことが示唆される。



写真1 1月12日の噴火活動



写真2 1月13日の噴火活動

いずれもロープウェー西駅前から撮影

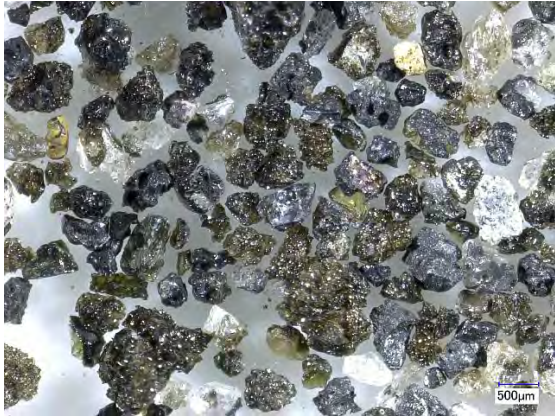


写真3 1月12日 10:30-11:00の火山灰粒子



写真4: 1月12日午後～13日午前の火山灰粒子

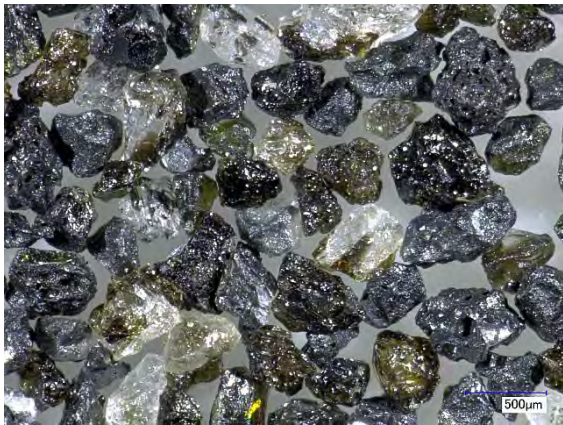


写真5 1月13日午前10時ごろの火山灰粒子